

# ひまわりからの メッセージ

66号

2016.10.17.

NPO ひまわりの花内

西濃圏域

発達障がい支援センター

発行人: 中野たみ子

絵本の世界を通して

豊かな心を育て

皆さんは、ノントンをご存知でしょうか。幼児の絵本に出てくる猫の名です。

大垣市の三歳児健診の折に、マッチングゲームにノントンが出てきました。知っている子が少なく、ノントン絵本に出合っていない子どもが多さに驚かされたことがあります。

『ノントン』フランコの設定『や』ノントンあわぶくぶくぶう』などシリーズとして多く出版されていますが、作者であった大

友康匠さんが離婚されて、奥さんの清野幸子さんが著作権をもたれ（おそらく、今までもご夫婦の合作）その後もずっとシリーズは増えていきました。しかし、二〇〇八年に清野さんが亡くなったことで、ノントンのシリーズが終わることになったのでしよう。子どもたちが『ノントン』と言わず『猫』と言

うのを聞くと、「良い本だったのに……」と寂しい気がしていました。

『ノントン』フランコの設定』は、フランコを交代するのに「一、二、三……十」と数えて「おまけのおまけの汽車ポッポ ホーツとなったら代わりましょ」と、気持ちの切りかえを促す場面があり、私はそれを賛え歌にして、入浴の時は「ポーツと鳴ったら出ましょうね」と、娘たちを育てたものです。もちろん、十まで指で数えながら……『ノントンあわぶくぶくぶう』は、泡にかかれた動物を見つけて出すお話です。動物の体の一部分を見て、全体をイメージしていくわけです。とても教育的ですよ。

作者には叱られるかもしれませんが、職場では、ノントンの紙芝居を作りました。パソコンもコピーも十分に普及していなかった時代のことです。節分の豆まきの意味もわかっていない子どもたちに対して、ノントンを登場させてみたのです。ノントン絵本は小さいので、グループ療育では使えません。だから、紙芝居版にして見せたり、絵カードとして使ったり……ノントンは大活躍してくれたものです。

実は、先日の新刊の書籍紹介の欄に、ノントン絵本の広告が載っていました。それを見て、何だかほのぼのと嬉しい気持ちになったのは、きっと私だけではないでしょう。争いごとや戦いごっこばかりが目につく昨今、子どもたちの心を豊かにしてくる本がもっともって読まれるといいなあと思っています。

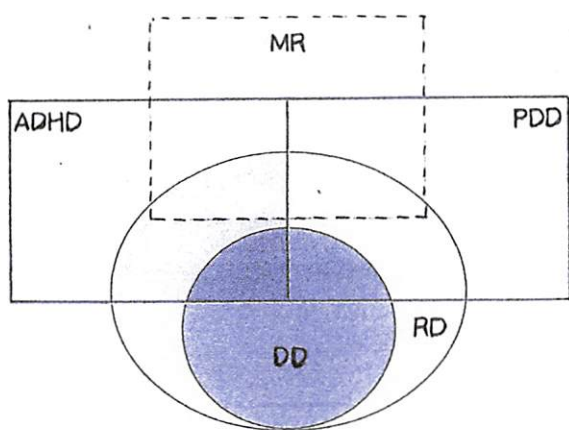
# 特異的読字障害(発達性ディスレクシア)と

MIM-PM (ミム・ピーエム)



前回、読み書きの苦手な子どもたちを取り上げましたが、今回は「特異的発達障害」(診断と治療社)という本をご紹介します。この中には、特異的読字障害や特異的算数障害などについて診断の手順と、支援の実際が書かれています。まず、読みについて

へ特異的読字障害と他の発達障害の関係



DD: 特異的読字障害あるいは発達性読み書き障害(発達性ディスレクシア) developmental dyslexia

RD: 読み能力の障害 reading disorder

※ つまり RDはMR(知的障害)やPDD(広汎性発達障害)やADHD(注意欠如・多動性障害)にも見られるため、併存症の診断も必要

へ診断の手順

① 問診および診察・検査

DD(特異的読字障害・発達性ディスレクシア)は、知的障害や聴覚障害、視覚障害がなく、家庭環境や教育の機会に障害要因が認められないにもかかわらず読み書きが特異的に障害された状態にある。

標準化された知能検査で全般的知能を確認する(例えばWISC-IIIでFIQ、PIQ、VIQのいずれかが85以上であること)

② 読み書きの症状チェック表

学力、読字、書字に分かれていて、現在の症状のチェックをする。心理的負担、読む(書く)スピード、読む(書く)様子、仮名の誤り、漢字の誤りなど項目別にチェックをする。

③ 読み検査課題

- ・ 単音連続読み検査
- ・ 単語速読検査
- ・ 単文音読検査

いずれの検査も音読の時間と、読み誤りなどエラーを計測するようになっています。

症状チェック表で、項目のうち七個、読み検査課題で二つに異常が見られる場合、RDの中で特にDDの可能性が高いと考えら



れます。

発達のディスレクシア(D/D)が就学前に気づかれることはまれで、多くは、就学後に発見されます。ひらがなは、障害の程度が軽かったり、記憶で読みを代償していたりすると発見されにくいでしょうし、カタカナも使用頻度が少ないために見逃されてしまうことがあります。三年生くらいになって、漢字の習得の苦手や困難を訴えるようになってはじめて発見されることも多く、その時点でひらがなの読みを意識していないことも多いようです。

### へ早期把握・早期支援

学習が進むにつれて、つまづきが顕在化してしまう子どもたちを、つまづく前に把握し、指導につなげていくためのアセスメントとして開発されたのが、ミニ・DM(シム・ピーム)と呼ばれるものです。これは、学研から出されていて、多属指導モデル(RTIEモデル)を導入したものです。

通常学級の子どもたち全てを対象にした1stステージ、それだけでは伸びが見られない子に対して補足的に行う2ndステージ、2ndステージの指導でも依然伸びが見られない子に対して通常学級内外でより個に特化した3rdステージと、三つのステージを時系列に流しながら指導していきとうとするものです。つまり、最初から能力的に分けて指導するのではなく、クラス全体の

効果を考え、指導者自身の「指導方法のあり方」の見直しも含めて指導のあり方を探っていきとうと考えられています。

RTIEモデルを導入したものと、他に鳥取大学方式と呼ばれる二段階方式による音読指導があります。音読が困難であることの背景に、①文字に対応する読み方に解読することの困難さ(デコーディング)と、②単語や語句をひとまとめで認識すること(チャンキング)の困難さがあると考えます。そこで、まず清音四十六文字を、一つ一つのカードにして音読練習し、次に濁音、半濁音の練習、促音や撥音の入った単語、拗音や拗長音の練習などに進み、次にチャンキングを促進させるために、文節の区切りを学ばせると共に、語の教も豊富にして将来的に読解力を高めようというように指導していく方法を考えています。

チャンキング促進のためには、単語形体(モジュール)の形成を考え、単語や語句をただ読むだけでなく、その意味を教えたり、その語句をイメージさせる絵を描かせたり、自分で辞書をはかせたりして、定着させていきます。また、その語句を使って例文を完成させていくことも、大切な指導です。

鳥取大学方式以外にも、大阪LDCセンター方式と呼ばれるものがあり、視写能力など視機能の力も考慮に入れた指導方法が示されています。

子どもたちのために様々な方法が考えられてきていることを知って、日頃の教育の現場に取り入れて下さると、救われる子どもたちがたくさんいるのではないだろうか。

十月一日(土)に、特別支援教育士の研修会があり、本巣市一色小学校の如藤健先生の実践報告がありました。

鳥取大学方式を使った音読検査をもとに行った個別支援や学級内での取り組みと、最近の実践として、クラスルールのUD(ユニバーサルデザイン)化、授業のUD化、テストのUD化などについて話していただきました。

前述の音読検査は、一年生時に年三回行うことで、個別支援が必要なきか、クラスの中で大丈夫なのかかわかるということでした。いずれにしても子どもの実態を知ることがスタートであることは言うまでもないことです。

加藤先生は、三学期にセンター研修に講師としておいでいただけるといってお願ひしてありますから、具体的にお話願えるとあります。例えばクラスルールのUD化についても、最初は子どもたちから「何を怒らんの?」「先生、隣の先生に怒られるぞ!」等という声が出たそうだから、これまでのクラスルールの概念を変える取り組みをされたということですが、学校へ来るのは、何が目的か、本質的なところをきちんと子どもたちにかわかっていくことが大切なのでしょう。

助言者の小栗正幸先生が「来年度から三重県立で高等学校の通級指導が始まる」とおっしゃっていましたが、高校入試と合理的配慮については、今後、変わっていくことでしょう。発達障がいの子どもたちにとっても、生き易い世の中になっていくように、一歩ずつ改善されていくといいですね。

### 国語辞典について(親の会Yさんより)

辞書を買う時、例えば「か行」であれば「かきくけこ」とアからオ列まで横に書いてある辞書がお勧めと言ってお下さいました。辞書をはいていくうちに、アからオ列を学ぶことができるところからです。また、辞書でひいたことばの所に、付箋もつけておくと、自分が辞書で調べたことばがどの位になったのか目で確認できるので、励みにもなるということでした。

これから辞書を買おうと考えるいらっしゃる方は、参考にしてみてくださいるといいですね。

お知らせ



十一月例会 十四日(月) 九時三十分～十一時三十分  
十二月例会 十二日(月) 〃  
〃  
〃  
会場は、奥の細道記念館です。